



たけた竹灯籠『竹楽』と里山保全プロジェクト



背景

- 竹はしなやかで強く、暮らしに欠かせない植物として有用とされてきた。
- しかし、プラスチックなどの代替材が台頭して安価な輸入品が増加すると、搬出量が減り、過疎化・高齢化に伴い放置され、荒廃した里山が増加。

「こどもたちに竹田の美しい里山をのこしたい！」
という地域の思いから、伐竹とその竹を活かす取り組みがスタート

目的

- 里山保全
- 観光振興
- 地域資源活用

『竹楽』のイベント開催を通じた竹林の荒廃改善及び里山文化の再生と、竹の素材を活用した産業・文化の連環による「竹田らしい」・「竹田ならではの」**地域活力の創造と推進**を図る。

これまでの取り組み

- 2000年 3,000本の竹灯籠を城下町武家屋敷通りに設置
- 2001年 竹灯籠を12,000本に増やし、名称も「たけた竹灯籠 竹楽」として単独開催
- 2002年 以降、毎年20,000本をベースに開催実施
- 2014年 竹工芸作家の誘致を開始
- 2021年 CNF製造を手掛ける大学発ベンチャーとの立地協定を締結



竹楽の景色は多くのひとの心に
“竹田の思い出の景色”として刻まれています。





たけた竹灯籠『竹楽』と里山保全プロジェクト



事業内容
と得られる
成果



NPO法人を中心とした 伐竹・搬出



里山保全・荒廃対策
市民協働

← 保管場所には
廃校となった中学校
の体育館を活用

竹灯籠『竹楽』へ

風情豊かな竹田の城下町に約2万本の竹灯籠が並び、幻想的な世界が広がります。3日間で10万人以上の誘客見込み。

▶ **観光振興・シビックプライドの醸成**



2022年は
3年ぶりの
通常開催！！

竹工芸・竹製品へ

▶ **芸術文化の振興・産業活性化・廃校活用**



竹楽グッズの試作品



廃校舎を活用した
クリエイション工房
「竹田総合学院」

新素材（CNF等）へ

▶ **産業イノベーション・脱炭素・企業進出・産学官連携**

竹の素材化技術を持つ
企業・工場の誘致



企業の
皆様へ

▽求めるもの **企業版ふるさと納税を通じた応援**、伐竹・搬出技術や竹活用技術に係る支援・協働

▽企業様のメリット **竹田市特設Webサイト及び市報でのご紹介、環境保全事業への参画・貢献のPR**